

生徒の心に寄り添い，読書への意欲を高める図書館運営

志布志市立松山中学校 司書補 加納 里栄子

目 次

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の実践	1
4	研究実践の内容	1
	実践1 司書補としての資質向上の実践・司書教諭資格講習の受講	1
	実践2 生徒の読書意欲を高める取組	3
	(1) 貸し出し作業の効率化	
	(2) 図書館内や入り口のディスプレイの工夫	
	(3) 読書推進月間（10月）の取組	
	実践3 生徒の心に寄り添う図書館運営	6
	(1) 給食時間の放送の活用	
	(2) 居場所としての図書館運営	
5	研究の成果と今後の課題	9

〔引用・参考文献〕

・『読みたい心に火をつける！』	木下通子	岩波書店	2017年
・『お探しものは図書室まで』	青山美智子	ポプラ社	2021年
・『鹿児島ことばあそびうた』	植村紀子	石風社	2004年
・『木を植えた男』	ジャン・ジオノ	あすなる書房	1989年
・『はらぺこあおむし』	エリック・カール	偕成社	1969年

1 研究主題

生徒の心に寄り添い、読書への意欲を高める図書館運営

2 主題設定の理由

私は志布志市の会計年度職員として採用され、本校勤務の2年目を迎えた。昨年度は、念願だった司書補としての職務に就けた喜びとともに、本離れが進んでいるという中学生にどのように読書に関心をもたせられるのか、試行錯誤しながらいろいろな手立てに取り組んできた。生徒との学校生活に慣れることと、本を通して生徒たちと一喜一憂しながら一年間を過ごしてきたように思える。

今年度、出会った一冊の本、「読みたい心に火をつける！」に心を奪われた。

「人と本が繋がると、人と人がつながる。」「何かおもしろい本なあい？」生徒にそう聞かれるのが、司書はいちばんうれしいです。司書は本の専門家として認められている、そんな気がするからです。そう聞かれた時には、自分がいちばんおもしろいと思っている本を紹介したり、その子の要望を聞いていっしょに本棚を探したりします。こんな風に子どもたちの読みたい心に火をつけるのがまさにこの仕事をしていく醍醐味です。本に関わる「嬉しい」「おもしろい」「楽しい」「大好き」が学校図書館にはいっぱい詰まっています。

(「読みたい心に火をつける！」P140, P141 抜粋)

まさしく生徒も私自身も「嬉しい」「おもしろい」「楽しい」「大好き」な図書館を望んでいる。本を読んだり、貸し出したりするだけではなく、生徒の心のよりどころでもありたいと思っている。生徒の心に寄り添える図書館の整備と読書への関心を更に高める手立てについて、今年度は取り組んでいくことにした。

3 研究の実践

実践1	司書補としての資質向上の実践・・・司書教諭資格講習の受講
実践2	生徒の読書意欲を高める取組
実践3	生徒の心に寄り添える図書館運営

4 研究実践の内容

実践1 司書補としての資質向上の実践・・・司書教諭資格講習の受講

司書教諭資格を取得することが司書補としての自信につながり、読書指導で信頼されることと思い、2年間の資格講習(鹿児島大学教育学部で10単位・20日間)の後期を受講し、取得することができた。

(1) 受講日程 令和3年度学校図書館司書教諭講習受講(鹿児島大学教育学部にて)

読書と豊かな人間性	8月17日～20日(4日間)	講師 上谷 順三郎氏
情報メディアの活用	8月23日～26日(4日間)	講師 山本 朋弘氏
学習指導と学校図書館	8月27日～30日(4日間)	講師 川戸 理恵子氏

イ プレゼン資料の作成

「歴史的観点から図書館の本の展示をする」という課題が与えられた。パワーポイント操作なども教えてもらえると思っていたが使える前提の講義だと知り、あわてふためいた。分からない、できない生徒の気持ちを痛感した講義だった。だが、不思議と7月26日に登録された「奄美・沖縄世界自然遺産登録」が浮かび、西郷隆盛や田中一村、奄美の歴史的書物や動植物の本が浮かんできた。過去に奄美大島で3年間生活して体験したことや、大学生や現職の教諭が関わっていない私の司書補としての本との関わりが活かされたと感じられた。限られた時間で作り上げることができた達成感は忘れられないものになった。



本年度はコロナ禍の影響で開催も不安な中、リモートでの講座もあり、レポートの作成、構成、提出等も電子メディアを活用した内容が多く、メディアに慣れている学生や現職の教諭とは違い、機器に疎い私にとって大変難しい課題ばかりで戸惑うことの連続だった。ときには「手書きではいけませんか?」「紙媒体での提出ではいけませんか?」と講師を困らせた受講生だったと思う。しかし、パワーポイント作成の方法も分からず聞きながらも、90分で企画・構想・作成・発表する課題を、自分のアイデアがメディアを通してよい形で仕上がり、できた喜びも感じる事ができた。教育機器が進歩し、ICT教育やGIGA スクール事業が進んでいる中で仕事をしていくことを考えると、「できない!」ではなく「やってみる!」という前向きな姿勢が必要なことを改めて痛感した。

実践 2 生徒の読書意欲を高める取組

(1) 貸し出し作業の効率化

これまで貸し出しカードと読書冊数カード(借りたらスタンプを押す)を別々に保管していたために、貸し出し作業に時間がかかっていた。そこで効率化を図るために、個人ファイルを作成し、取り出し易くするために出席番号のシールを貼り、学年ごとの収納ボックスも作成した。これらによって貸し出しの時間が短縮され、借り渋る生徒にとってもよい成果が見られるようになった。



(個人ファイル・貸し出しカードと読書冊数カードの統合)



(収納ボックス)

(2) 図書館内や入り口のディスプレイの工夫

「楽しい」「おもしろい」「大好き」な図書館にするため、そして季節や行事に応じた図書に興味をもたせるために、図書館内や入り口の設営を工夫した。生徒に感性豊かな心を育てたいと考えたからだ。

3月 ひなまつり



6月 むしの日・エリック・カールさん追悼展示



7月 オリンピック



9月 奄美・沖縄世界自然登録



12月 クリスマス



2022年1月 新年に向けて



(3) 読書推進月間(10月)の取組

まずは、生徒が図書館に来て、本に触れ、読書に親しんでほしいという思いを込めて読書ミッション3を考案・企画した。これは3つの手立てからなっており、読書指導教諭と国語科教諭に提案し、職員会で説明し、先生方にも協力を得て実践することができた。

ア 読書ミッション3の取組

読書ミッション① 先生方によるビブリアワーク

入り口に「先生方の思い出の1冊」を展示し、この中から最低1冊は読むことでミッションクリアとした。

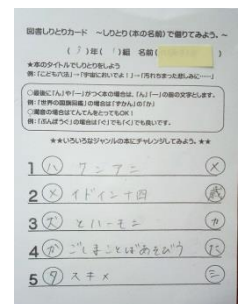


読書ミッション② 図書タイトルしりとり

自分の好みの本に限らず様々な本を読んでほしいので、本のタイトルからしりとりゲームとして設定した。図書しりとりカードにタイトルを記入させ、つながったタイトルの本を読むことでクリアとした。この手立てによって興味をもって本に親しむ生徒が増えてきた。その二つの例を紹介する。

【ケース1】

3年生のK君は、読書に関心がもてないながらも、図書館に顔を見せてくれる。【図書しりとり】の4冊目、「先生『か』から始まる本はないですか？」小説を勧めたかったが、少しでも関心をもってもらえればと思い、K君は選ばないであろう『鹿児島ことばあそびうた』を手渡した。私の好きな本の1冊でもあり、かごしま弁の詩集でおもしろい。K君は受け取ると、カードに記入し、そそくさと図書館を出て行った。数日後、彼が図書館に入ってくるなり、「先生！あの本、すごくよかった！」と。突然の言葉に「え！何、何？」と戸惑う私に、「勧めてくれた『鹿児島ことばあそびうた』です。」と。そして、一緒に来ていた友達のT君に「T君！先生に本を探してもらおうといいよ」とも。その言葉から、T君の「読みたい心」に灯がとまり、T君は2学期の多読賞を取得した。



【ケース2】

1年生のM君はあまり本を読まない生徒だったが、図書しりとりをきっかけに取り組むようになっていた。ある日の放課後、「『き』で始まって、『こ』で終わる本！」「き！」「き！」と、叫ぶように探すM君の姿があった。私は、そんな本はないだろうと思っていた。図書館にいた生徒まで探し始めた。しばらくして、友人のI君が「あった！」と叫びながら、『木を植えた男』を見つけたのだ。図書館にいたまわりの生徒たちも「すごい！」「すごい！」と喜びの歓声をあげ共感した。感動の名作絵本は、まさしく感動の「思い出の1冊」となった。



読書ミッション③ 隠されたオレンジ色のラッキーチケット(宝本)を探す。



図書館の本の中にラッキーチケットというカードを、全校生徒数の105枚分隠し、そのカードの入った本を探し、借りることでラッキーチケットがもらえる。これを、読書ミッション③として設定した。そして、すべてのミッションをクリアすると、おまけのしおりがもらえるという取組だ。これは、小説や文学に限らず、哲学、歴史、社会科学、自然科学等、幅広いジャンルの本を読んでほしい思いで設定した。自分で探せない生徒には、隠されている本のヒントを与え、気付かせる対応をした。この結果、26人の生徒が読書ミッション3を達成できた。

イ 読書月間の展示



(1年生の書いたお勧め本紹介)



(読書推進月間の展示)

実践3 生徒の心に寄り添う図書館運営

(1) 給食時間の放送の活用

生徒の心に届くように、放送を活用して本の紹介や季節感を感じさせることにした。きっかけは5月23日に亡くなられたエリック・カールさんの哀悼の文面だった。原稿を作成し、国語科担当教諭に見てもらい助言や許可を得て放送部に依頼した。

2021.5.28(金) 放送原稿・・・虫の日と作家紹介の放送

図書館からです。

おひさまが のぼって あたたかい にちようびのあさです。ぼん！と たまごから ちっぽけな
あおむしがうまれました。あおむしは おなかがぺっこぺこ あおむしは たべるものを さがしは
じめました。
(絵本『はらぺこあおむし』から抜粋)

絵本「はらぺこあおむし」を見たことがありますか。『はらぺこあおむし』は、たくさんの人に愛される絵本です。作者のエリック・カールさんが23日に93歳で亡くなられました。これからも絵本を通して生きていくことでしょう。あおむしといえば・・・図書館には2匹のあおむしがいます。毎日変化しています。これからさなぎになり、羽化してチョウになり、飛び立つ日まで見届けていきたいと思います。6月4日は「むしの日」なので、虫に関する本の展示もしますので、ぜひ、図書館に見に来てください。

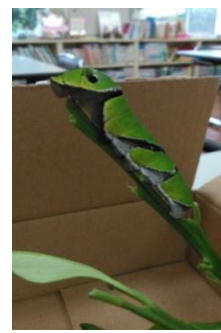


(はらぺこあおむしの大型絵本)



(幼虫図鑑展示)

この放送の後、花壇にいた幼虫を捕まえ持ってくる生徒が増え、図書館で飼育し羽化させることができた。体験学習にもつながり、虫の好きな生徒は『ファール昆虫記』や『虫は人の鏡』等を借りていく姿があった。



(幼虫から羽化まで ツマグロヒョウモン)

(アゲハの幼虫の飼育)

2021.7.2(金) 放送原稿・・・地域行事に結び付けた内容

図書館からです。7月2日は何の日でしょう。「さぬきうどんの日」だそうです。志布志市では、大晦日の年越しそばのように、6月30日を皮切りに、夏そばを食べて、無病息災を祈願するそうです。これから暑い日が続きますが、夏バテ睡眠、食事に気を付けましょう。夏の行事と言えば・・・七夕です。お盆の行事でもあります。図書館でも七夕飾りをしますので願い事を書いてみませんか？

1学期何冊借りて読みましたか？今日は2冊貸し出し日です。図書館で待っています。

2021.10.27(水) 放送原稿・・・読書の日になんだ内容

図書館からです。10月27日、今日は何の日でしょう。「読書の日」です。読書週間の1日目に制定されています。今日から11月9日まで読書週間です。この季節になるとキンモクセイの香りがしてきますが、今年は暑かったので、開花が遅れているそうです。キンモクセイは香りのよい木で、保健室の前にあります。小さな黄色のつぼみがたくさん、今にも咲きそうです。文化発表会に花をそえてくれることでしょうか。

そして、「テディベアズ DAY」でもあります。テディベアの名前の由来となる「テディ」が愛称のセオドア・ルーズベルトの誕生日でもあります。図書館のテディベアもみなさんにかわいがられていますね。さらに、「ベア」と言えば、「熊」です。熊の人生について考える7つの動物おとぎ話。「頭の打ちどころが悪かった熊の話」という本があります。1年生国語の教科書でも紹介されています。この機会に読んでみませんか？

2021.12.22(水) 放送原稿・・・冬休み貸し出し呼びかけのためのミニトーク

文化部 Nさん 文化部からです。今日は大切なお話があります。静かに聴いてください。

Fさん 「ねえ、Tくん、本を借りた？」

T君 「いやあ、時間がなくて借りてないよ。しかも受験生だし。」

Fさん 「受験勉強も大事だけど、受験の参考になる本も図書館にはあるよ。」

T君 「1、2年生のうちに読んでおけばよかったなと思う。でも、僕は10月の読書推進月間から図書館に行く回数が増えたよ。」

Fさん 「明日まで貸し出しがあるから図書館へ行こうよ。」
 T君 「OK！みんなも行くかな。」
 Fさん 「冬休みの貸し出しは、5冊まで借りられるんだよね。Nさん。」
 Nさん 「はい！本日昼休み、1時15分から45分まで本を選んでください。」

* 12月20日から始まった冬休みの貸し出し冊数は少なかったのですが、3年生のFさんとT君の協力を得て、ミントークの放送をしてもらったところ、生徒の心に届き、昼休みには多くの生徒が図書館を来館。静かに並び、マナーもよくて驚きの連続だった。

2021.12.23(木)放送原稿・・・放送効果のお知らせ

図書館、文化部からです。

Fさん 「T君、昨日図書館に行った？」
 T君 「うん！行ったよ。多くの生徒が本を選んで借りていたね。」
 Fさん 「図書委員のNさんが頑張って対応していたね。」
 T君 「みんな静かに並んで、貸し出し作業を待っていたよ。」
 Fさん 「上履きもきちんと揃えて並べられていたね。」
 T君 「ルールやマナーを後輩に伝えていくことも大事だね。」
 F君 「昨日1日の貸し出し冊数は何冊ぐらいだったのかな？」
 Nさん 「1年生 119冊、2年生 57冊、3年生 71冊でした。」



(多くの生徒が訪問)

(貸し出しのマナー)

「今日も貸し出しできますのでまだ借りていない人は、図書館へ行きましょうね。」

* 冬休みの貸し出し合計は1年生 133冊、2年生 65冊、3年生 101冊 合計 299冊だった。
 放送の効果と放送部員の協力のおかげで、とてもいい成果が得られた取組となった。

(2) 居場所としての図書館運営

図書館は、生徒にとって読書だけでなく居場所としての空間にしたいと考え、生徒の声に耳を傾けるよう心掛けている。図書館のカウンターに来て、「先生、聞いてくださいよ。」と話し出したり、テストの成績や部活動のことを相談したりする生徒も増えている。昨年よりも生徒との関わりも深くなったと感じている。

冬休みも図書館を開放して、生徒たちの学習の場としている。高校受験を前に学習できる環境づくりやほっとできるような生徒の居場所づくりをして、寄り添いながら見守っていきたくないと取り組んでいる。



(ツリーに癒やされて)



(ひな段飾りの前で)



(冬休み中の自学自習)

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

4月から12月までの貸し出し冊数を調べてみると、1年生 982冊、2年生 542冊、3年生 915冊、合計2439冊。平均 23.2冊だった。昨年に比べ増加している。貸し出し冊数には個人差があるものの、今年度は貸し出し0冊の生徒がいなくなったこと、そして図書館を訪れる生徒が増えたことは成果と感じている。さらに、10月の読書推進月間の取組では、昨年度より学校職員の協力を得られたことと、生徒の本に親しむ姿が多く見られたことから読書の大切さを感じてもらえたこととうれしく思っている。

※ ベストブック（2021.4.1～2022.1.7調査による最も読まれた本）

- 1位 『小説働く細胞』 清水茜 原作 講談社 2018年
- 2位 『その先には何が!? じわじわ気になるほぼ100字の小説』 北野勇作 キノブックス 2018年
 - 〃 『木曜日にはココアを』 青山美智子 宝島社 2017年
 - 〃 『お探し物は図書室まで』 青山美智子 ポプラ社 2020年

(2) 今後の課題

鹿児島大学で受講した20日間の司書教諭資格講習は、私にとって学校図書館運営における「はじめての一步」だった。読書活動は、体験学習であり達成感や充実感をもたせることの大切さを学んだ。司書教諭資格講座で学んだことと、いただいた講習資料は私にとって理論的な支えであり、今後、生かしていきたい。

昨年度の1年間は、「思い出の図書館にする」を目標として試行錯誤しながら取り組んできた。今年度は『読みたい心に火をつける!』『お探しものは図書室まで』の本との出逢いが、偶然ではなく必然の出逢いと感じ、私を司書教諭資格取得への道に導いた。その役割を追求し、生徒の心に寄り添える図書館の運営が目標となり、日々工夫を重ねて取り組んできた。生徒にとって、本の中で述べられていたように「嬉しい」「おもしろい」「楽しい」「大好き」な図書館に近付けたのではないかと思う。昨年12月に雪(発泡スチロール)降るクリスマスツリーを飾ったが、今年、クリスマスが近付いたとき、「先生、今年もクリスマスツリーを飾りますか?」と聞かれ、楽しみにしててくれたことが嬉しかった。ツリーを飾ると、昼休みの図書館に笑顔があふれた。

学校図書館の機能と役割として、児童生徒の「読書センター」及び「学習・情報センター」がある。また、図書資料のレファレンス(ニーズに応じた資料提供)や取り寄せ等のサポート機能も必要である。まさしく『お探し物は図書室まで』に登場する司書の小町さんの姿に、自分の司書としての将来の姿を重ねた。借りる人の気持ちに寄り添える司書になっていきたい。そして、生徒の心に寄り添いながら、更にスキルや感性を磨き、「嬉しい」「おもしろい」「楽しい」「大好き」な図書館運営に努めていきたい。

